

愛は南から――

写真は生きがい

これからも花や人物を中心に

撮影していきたい

秋季県展・写真の部で特選を受賞した
中川裕文ひろふみさん



作品名：真夏の夜の夢
被写体となったのは
西崎雅あきさん（写真右）



表彰楯を手に笑顔を見せる中川裕文ひろふみさん

プロフィール

1950年生まれ。垣内在住。愛南フォトクラブ会員。
5年ほど前、退職を機に写真を撮り始める。
日課となっている散歩の途中で見かけた鳥や花など、日常風景を撮影するほか、各地のイベントにも出向くなど幅広く活動している。

第66回秋季県展（愛媛県や愛媛県美術会などが主催）写真の部で、垣内在住の中川裕文ひろふみさんが特選を受賞しました。特選は、県美術会大賞、渡部章正記念賞に次ぐ栄誉で、応募総数92点の中から選ばれました。初出品で特選を受賞したのは中川さんが二人目となるそうです。

二人目となるそうです。

受賞の喜び

写真歴5年ほどでの受賞について、「周囲も驚いていましたが、私自身も実力が伴っていませんので身に余る栄誉です」と謙遜します。

受賞作品について

御荘夏まつりの花火が終わった帰り道で、夜店の前にいた女の子を撮影しました。

「華やかな中に落ち着いた雰囲気があり、女の子の美しさもある。夏祭りらしい作品」と説明します。

写真仲間からの後押しもあり、県展への出品につながりました。

写真は生きがい

もともとはテレビや映画、読書などが趣味でインドア派だという中川さん。「フォトクラブに入ったことで仲間ができ、交流も増えた。写真は生きがいです」と話します。

今後の目標

受賞後には、被写体となった女の子に写真を届け、本人や家族にも大変喜んでもらったと言います。

「今回このような賞をいただいたので、これからも花や人物を中心に、頑張って撮影していきたい」と力強く話しました。